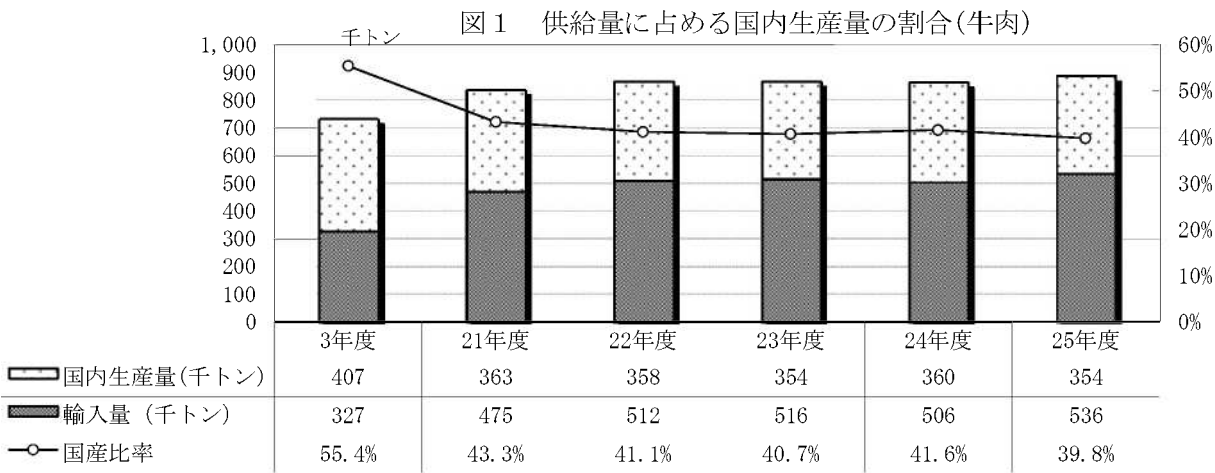


平成25年度第二市場（京都市場）の取引状況について

1 牛の取引状況

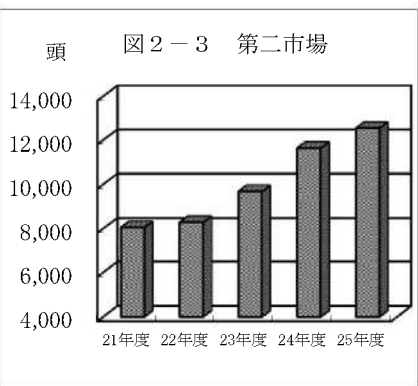
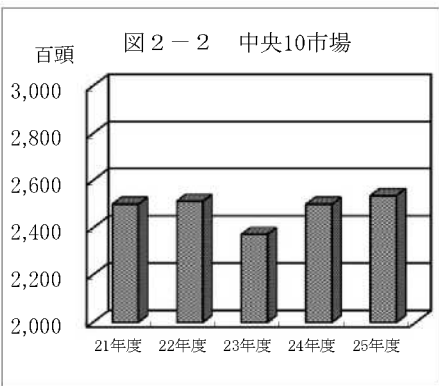
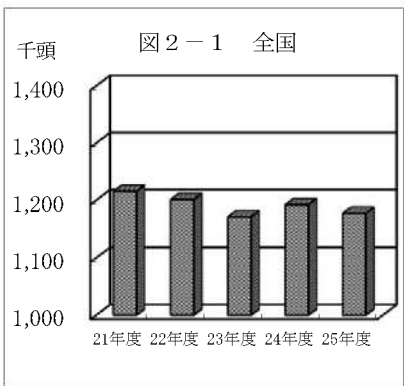
(1) 国内生産状況（牛肉）

- ア 平成3年度に牛肉の輸入が自由化された。
- イ 国産割合は平成3年度には55.4%だったものが、国内生産量の減少及び輸入牛肉の増加に伴い低下した。
- ウ 平成13年度以降、BSEの影響により牛肉の消費が減少していたが、平成18年以降は国内生産量、輸入量ともに増加傾向である。また、輸入牛肉の月齢緩和により、平成25年度の輸入量は増加した。
- エ 平成22年度、同23年度に発生した自然災害等の影響により、素牛（仔牛の総称）等が減少していたため、平成25年度は全国的に成牛流通不足が生じることとなり、国内生産量についても減少（前年度比1.8ポイント下落）した。



(2) と畜状況（成牛）

- ア 全国のと畜頭数は、平成21年度以降はやや減少していたが、平成24年度は持ち直し増加。平成25年度については、数年前に発生した自然災害等が影響し、全国的に成牛の流通不足が生じた結果、と畜頭数は前年度と比べ1.2%減少した。
- イ 第二市場の平成25年度のと畜頭数は、卸売会社が実施している出荷者に対する営業効果により、前年比で909頭（7.8%）の増加となった。

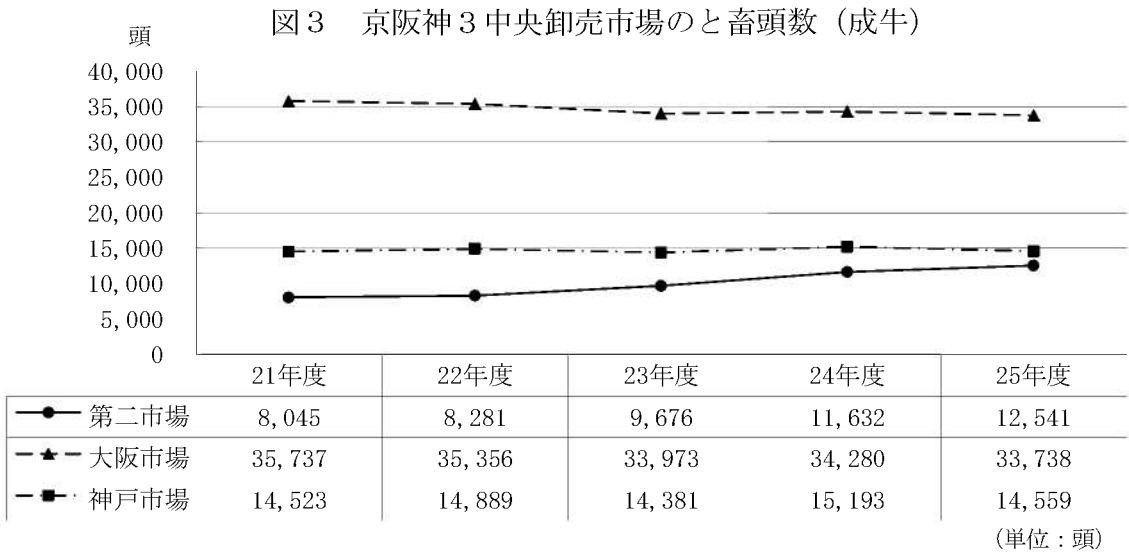


年度	21		22		23		24		25	
	頭数	前年度比	頭数	前年度比	頭数	前年度比	頭数	前年度比	頭数	前年度比
全国	1,215,873	▲0.8%	1,201,560	▲1.2%	1,171,295	▲2.5%	1,192,096	1.8%	1,177,311	▲1.2%
中央市場	249,913	▲1.0%	251,237	0.5%	237,258	▲5.6%	249,919	5.3%	253,681	1.5%
第二市場	8,045	▲0.8%	8,281	2.9%	9,676	16.8%	11,632	20.2%	12,541	7.8%

（単位：頭）
（全国は「畜産の情報」、他は「業務データ」）

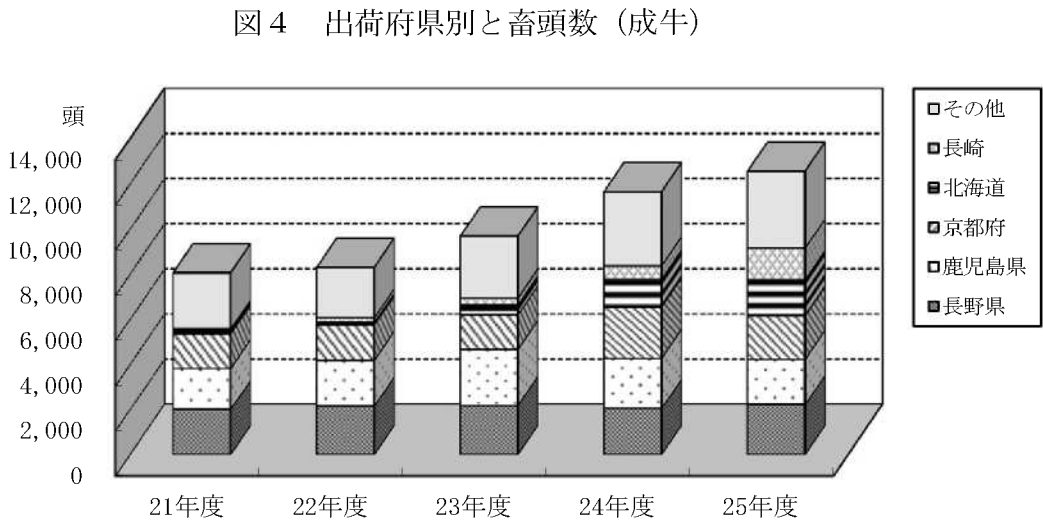
(3) 京阪神3中央市場のと畜頭数（成牛）

○ 平成25年度のと畜頭数は、第二市場で増加、大阪市場及び神戸市場は減少した。



(4) 第二市場の出荷府県別と畜状況（成牛）

- ア 長野県、鹿児島県、京都府、北海道、長崎県の5道府県で全体の7割以上を占める（平成25年度）。
イ 平成25年度は、長崎県、長野県、山梨県、北海道等からは増頭し、京都府、宮崎県、鹿児島県、兵庫県等からは減少した。

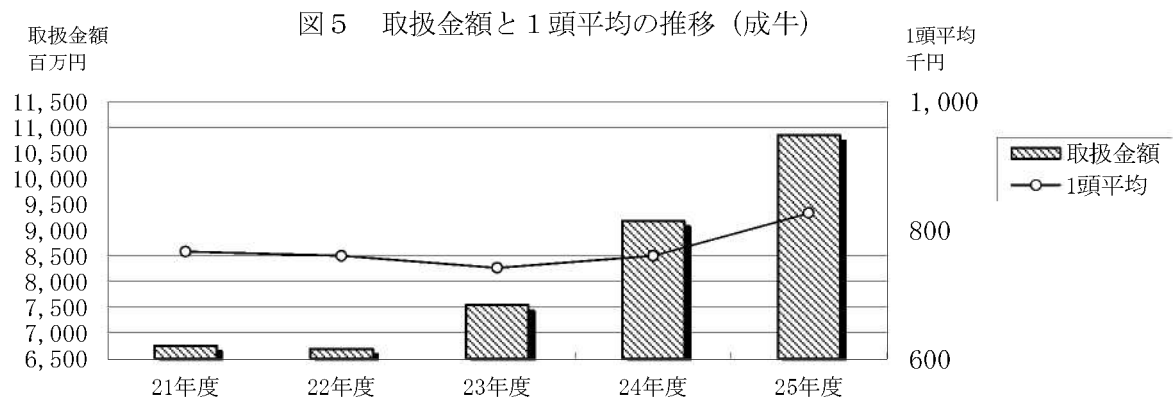


年度	21年度		22年度		23年度		24年度		25年度	
	頭数	占有率	頭数	占有率	頭数	占有率	頭数	占有率	頭数	占有率
長野県	1,998	24.8%	2,147	25.9%	2,166	22.4%	2,039	17.5%	2,214	17.7%
鹿児島県	1,815	22.6%	2,019	24.4%	2,475	25.6%	2,211	19.0%	1,998	15.9%
京都府	1,527	19.0%	1,578	19.1%	1,547	16.0%	2,287	19.7%	1,937	15.4%
北海道	217	2.7%	105	1.3%	435	4.5%	1,217	10.5%	1,593	12.7%
長崎県	0	0.0%	212	2.6%	319	3.3%	594	5.1%	1,397	11.1%
その他	2,488	30.9%	2,220	26.8%	2,734	28.3%	3,284	28.2%	3,402	27.1%
合計	8,045	100.0%	8,281	100.0%	9,676	100.0%	11,632	100.0%	12,541	100.0%

(単位：頭)

(5) 第二市場の取扱金額（成牛）

- ア 平成21年度は、依然、牛肉の消費不振が続き、1頭平均価格は前年度より7.0%減少した。
取扱金額についても、卸売平均単価の大幅な下落の影響で7.4%の減少となった。
- イ 平成22年度は、自然災害や経済不況に基づく消費不振により、1頭平均価格は前年度より0.8%減少した。
取扱金額についても、卸売平均単価の下落影響により、1.0%の減少となった。
- ウ 平成23年度は、牛肉生食問題や放射能汚染牛肉流通の影響により、1頭平均価格は前年度より2.5%減少した。
取扱金額については、大幅な入荷増頭の効果により、12.8%増加した。
- エ 平成24年度は、前年度に生じた食肉問題から消費者の意識が改善し、需要が高まったことを受け、1頭平均価格は前年度より2.5%増加した。
取扱金額については、1頭当たりの単価回復及び大幅な入荷増頭の効果により、21.7%増加した。
- オ 平成25年度は、全国的な成牛流通不足による生産量減少の影響を受け、1頭当たりの平均価格は前年度より8.8%上昇した。
取扱金額については、1頭当たりの単価上昇及び入荷増頭の効果により、15.8%増加した。



(単位：千円)

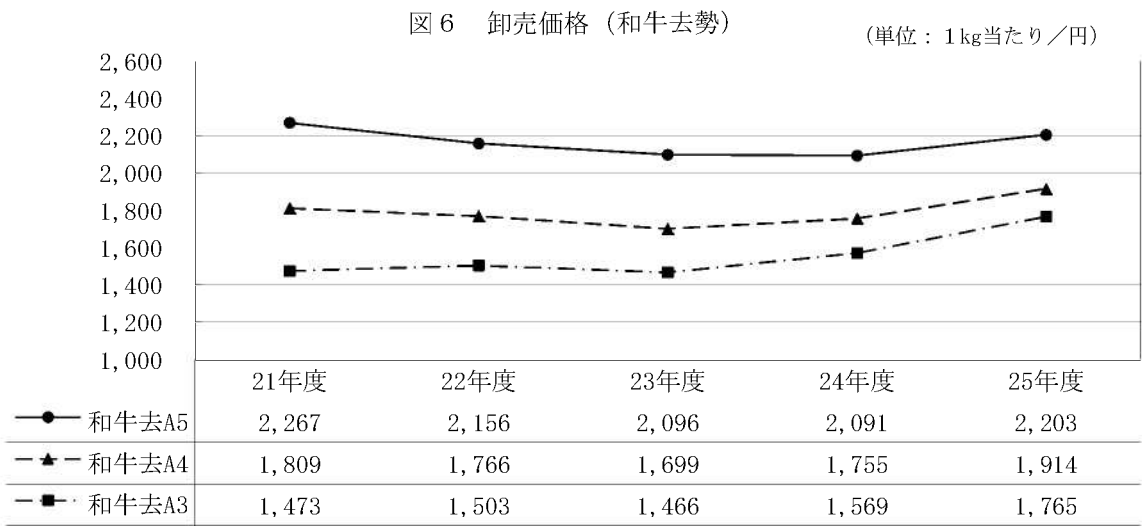
年度	21		22		23		24		25	
	金額	前年度比	金額	前年度比	金額	前年度比	金額	前年度比	金額	前年度比
取扱金額	6,752,456	▲ 8.8%	6,687,033	▲ 1.0%	7,543,076	12.8%	9,178,212	21.7%	10,623,932	15.8%
1頭平均	766.4	▲ 7.6%	759.9	▲ 0.8%	741.0	▲ 2.5%	759.6	2.5%	826.2	8.8%

※ 取扱金額には、部分肉、副生物を含む。1頭平均は枝肉1頭当たりの平均価格。

※ 22年度以降の指数は輸入肉を含まない指数である。

(6) 第二市場の卸売価格（和牛去勢）

- ア 平成13年に国内で初めてBSE感染牛が確認され、卸売価格は底値となった。その後、平成19年度までの価格は上昇していたが、次年度以降は総じて下降傾向にあった。
- イ 平成24年度は、消費者の牛肉に対する意識が改善した結果、下級牛肉を中心に価格が上昇傾向である。
- ウ 平成25年度は、全国的な国産牛肉流通不足の影響を受け、全ての等級で価格は上昇した。

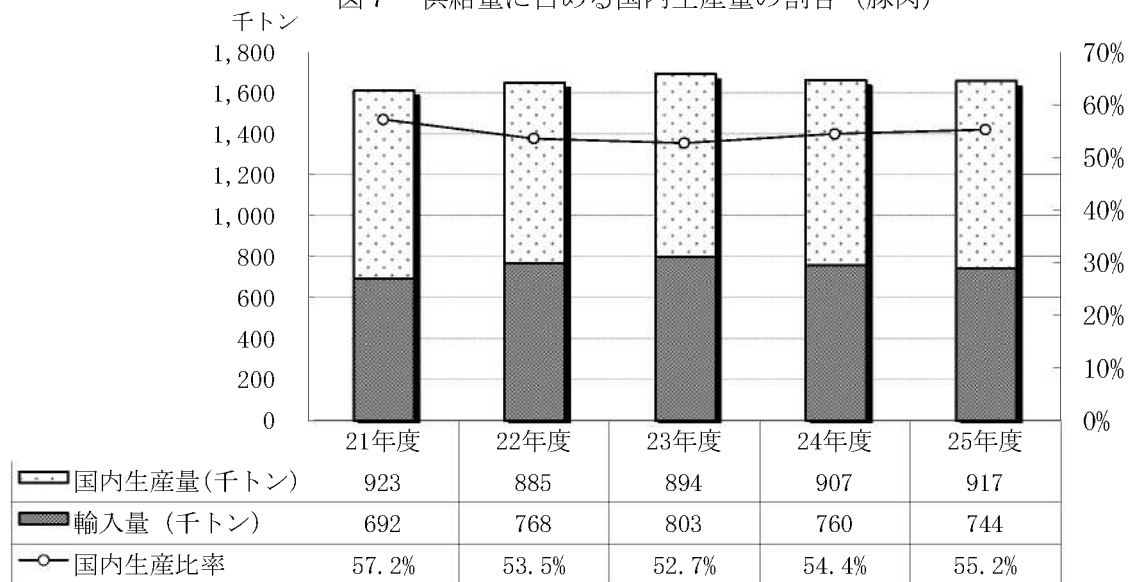


2 豚の取引状況

(1) 国内生産状況（豚肉）

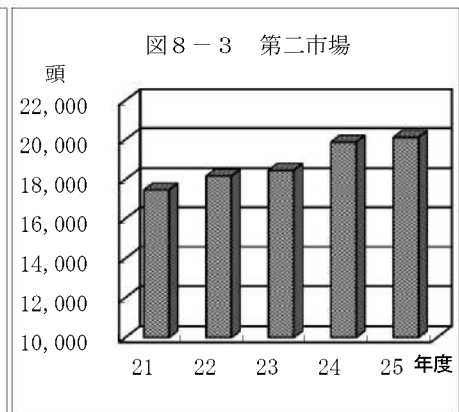
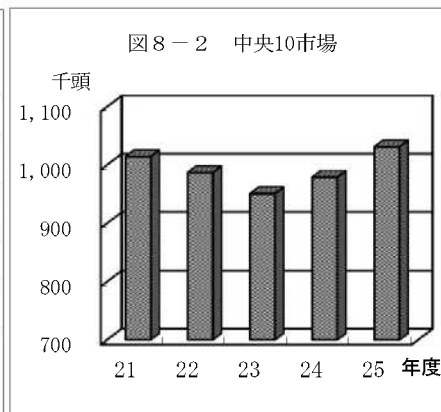
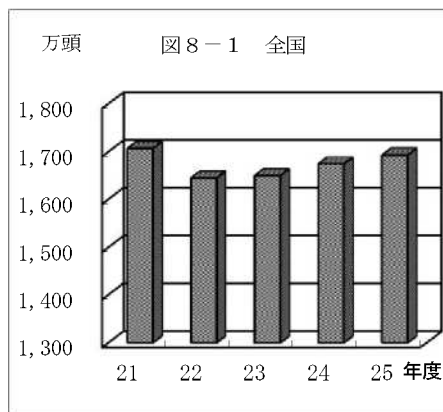
- ア 平成24年度の国内生産量は自然災害等の影響が少なく飼育環境が向上したため、前年比1.5%増加し、輸入量については輸入関税問題等の影響を受け前年度比5.4%減少。国内生産比率は1.7ポイント増加した。
- イ 平成25年度の国内生産量は順調に推移し、前年度比1.2%増加。輸入量については、為替相場、輸入関税問題等の影響を受け前年度比2.1%減少。国内生産比率0.8ポイント増加した。

図7 供給量に占める国内生産量の割合（豚肉）



(2) と畜状況（豚）

- ア 全国のと畜頭数は平成21年度までは増加傾向であった。平成22年度、同23年度は自然災害等の影響により減少したが、平成24年度以降は順調に回復し、平成25年度については、前年度比1.1%増加した。
- イ 第二市場の平成25年度のと畜頭数は、前年度と比べて240頭増加(前年度比1.2%増)した。



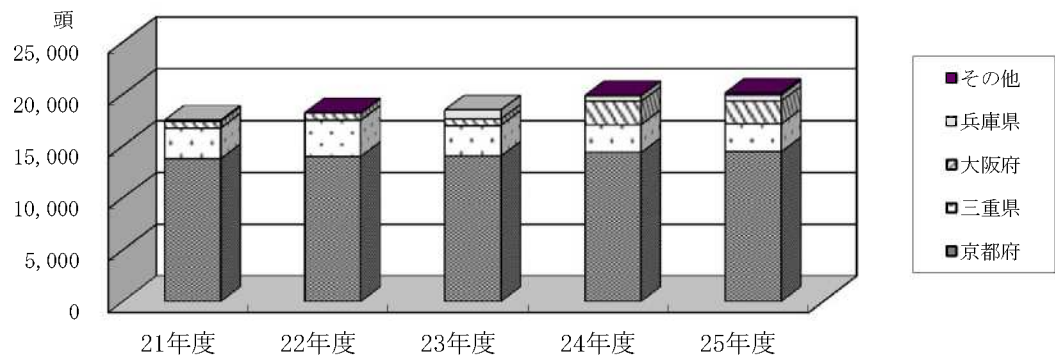
年度	21		22		23		24		25	
	頭数	前年度比	頭数	前年度比	頭数	前年度比	頭数	前年度比	頭数	前年度比
全国	17,077,241	4.6%	16,450,618	▲3.7%	16,508,384	0.4%	16,750,827	1.5%	16,931,254	1.1%
中央市場	1,014,618	5.5%	987,303	▲2.7%	951,922	▲3.6%	979,460	2.9%	1,031,983	5.4%
第二市場	17,466	14.6%	18,175	4.1%	18,463	1.6%	19,876	7.7%	20,116	1.2%

(単位：頭)

(3) 第二市場の出荷府県別と畜状況（豚）

- ア 出荷府県の中心は京都府であり、全体の7割強を占める。
- イ 平成25年度の入荷頭数は、前年度より240頭増加(前年度比1.2%増)した。

図 9 出荷府県別と畜頭数（豚）

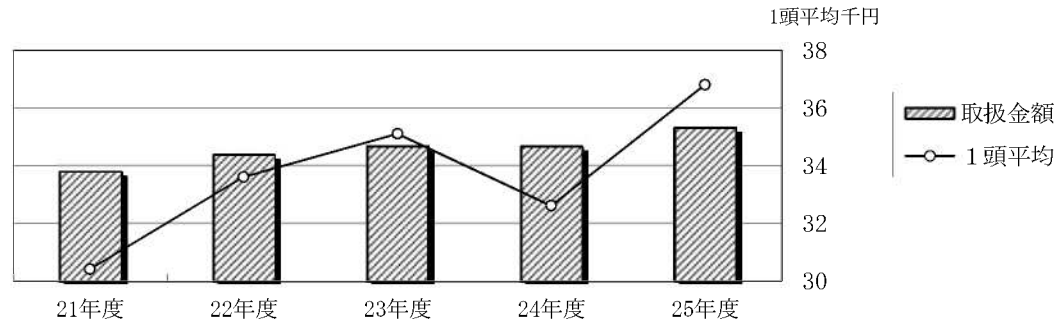


年 度	21		22		23		24		25	
	頭数	占有率	頭数	占有率	頭数	占有率	頭数	占有率	頭数	占有率
京 都 府	13,793	79.0%	14,007	77.2%	14,041	76.0%	14,377	72.3%	14,444	71.8%
三 重 県	2,940	16.8%	3,468	19.1%	2,937	15.9%	2,677	13.5%	2,655	13.2%
兵 庫 県	102	0.6%	20	0.1%	859	4.7%	2,269	11.4%	2,248	11.2%
大 阪 府	631	3.6%	660	3.6%	626	3.4%	544	2.7%	585	2.9%
そ の 他	—	—	20	—	—	—	9	—	184	—
合 計	17,466	100.0%	18,155	100.0%	18,463	100.0%	19,876	100.0%	20,116	100.0%

(4) 第二市場の取扱金額（豚）

- ア 平成17年度から平成20年度までは1頭平均価格は上昇傾向にあったが、平成21年度は過剰供給の影響により、前年度と比較して下落した。
- イ 平成24年度は牛肉に対する消費者意識が改善し購買意識がシフトしたことから、1頭当たりの単価が下落(前年度比7.1%減)した。
- ウ 平成25年度は輸入豚肉の流通不足により、国産豚肉の引き合いが強まったため、1頭当たりの単価が上昇(前年度比12.9%増)した。

図 1 0 取扱金額と1頭当たりの平均価格の推移（豚）



年 度	21		22		23		24		25	
	金額	前年度比	金額	前年度比	金額	前年度比	金額	前年度比	金額	前年度比
取扱金額	534,594	4.0%	535,114	0.1%	616,075	15.1%	655,741	6.4%	749,459	14.3%
1頭平均	30.4	▲12.9%	33.6	10.5%	35.1	4.5%	32.6	▲7.1%	36.8	12.9%

※ 取扱金額には副生物を含む。1頭平均は枝肉1頭当たりの平均価格

(5) 第二市場の卸売価格（豚）

- ア 平成20年度は、上半期は牛肉の代替需要により枝肉価格が高騰していたが、下半期は供給過剰により、市場卸売価格が下落したため、年度を通してほぼ横ばいであった。
- イ 平成22年度は、口蹄疫の発生、夏場の猛暑の影響や鳥インフルエンザに基づく鶏肉不足の代替品としての需要の高まりを受け、枝肉価格は上昇した。
- ウ 平成23年度は、牛肉に関する諸問題により、代替品としての需要が高まったが枝肉価格については、ほぼ前年並みとなった。
- エ 平成24年度は、消費者の購買意識が牛肉にシフトしたことから、豚肉の単価も下落した。
- オ 平成25年度は、輸入豚肉流通不足を起因とした全国的な高値相場の影響を受け、全ての等級で価格は上昇した。

